

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 津野町立 葉山小学校		校長	安岡 幸子	教員数	16	児童生徒数 学級数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計																													
		道徳教育推進教師	田井 真優	20	1		14	2	20	1	26	2	25	2	16	1	121	9																														
研究テーマ		道徳科の趣旨を踏まえた指導方法の工夫・改善と評価の在り方に関する実践研究により、児童一人一人の道徳性の向上をめざした道徳教育の推進																																														
年度当初の学校の状況		到達目標				中間検証(下半期に向けての改善事項)								年度末(到達目標達成状況)																																		
道徳性に関する現状		道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上 ①～⑧(③を除く)を95%以上にする。 ③家庭との連携に関する意識は、85%以上にする。				意識調査の結果をみると、⑥の項目は95.9%と到達目標を達成したが、それ以外の項目では、まだ到達目標に達していない。 授業については、1学期はねらいの明確化、深い学びにつながる授業に取り組んできたが、①の項目では、81%、②92.6%となっていた。展開が話し合い中心になっていたため、指導方法の工夫、中心発問での深め方など更なる授業改善が必要である。 家庭との連携については、道徳参観日の出席率93%とよかったが、数値としては、71.9%となっているので、今後も定期的に家庭で話をする場をもち、「高知の道徳」の活用についても取り組んでいく。 道徳実践力についても、声かけなど意識して取り組んでいるが、中間では、④88.4%、⑤90.1%、⑦93.4%となった。体験と学びの中での気づき、実践を結び付けていくことで、更なる指導計画の充実を図り、児童の意識を高めていく。								<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状</th> <th>肯定%</th> <th>目標に対して</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>89.3%</td> <td>-5.7</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>95.9%</td> <td>+0.9</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>78.5%</td> <td>-6.5</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>87.6%</td> <td>-7.4</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>95.0%</td> <td>±0</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>97.5%</td> <td>+2.5</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>91.7%</td> <td>-3.3</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>97.5%</td> <td>+2.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【成果】 ②は、授業を構想する段階で、自己との関わりや多面的・多角的を意識したこと、児童が授業の中で自分を振り返ることができるようになった。また、⑥⑧についても、教職員全体で意識的に声をかけてきた成果と言える。 【課題】 ①③については、年度当初より数値は上がっているが、到達目標には至っていない。取組の充実と児童に自覚させていくことも必要だと考える。④は、昨年度の取り組み「いいところみつけ」を継続したが、児童の自尊感情が高まる工夫が必要である。</p>								現状	肯定%	目標に対して	①	89.3%	-5.7	②	95.9%	+0.9	③	78.5%	-6.5	④	87.6%	-7.4	⑤	95.0%	±0	⑥	97.5%	+2.5	⑦	91.7%	-3.3	⑧	97.5%	+2.5
現状	肯定%	目標に対して																																														
①	89.3%	-5.7																																														
②	95.9%	+0.9																																														
③	78.5%	-6.5																																														
④	87.6%	-7.4																																														
⑤	95.0%	±0																																														
⑥	97.5%	+2.5																																														
⑦	91.7%	-3.3																																														
⑧	97.5%	+2.5																																														
肯定%		①道徳の勉強は、すきだ 86.8%				②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている 95.9%				③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む高知の道徳」を読んだりしている 68.6%				④自分には、よいところがあると思う 89.3%				⑤将来の夢や目標をもっている 95.0%				⑥人が困っているときは、進んで助けている 91.7%				⑦地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある 95.9%				⑧自分の住んでいる町・地域がすきだ 93.4%																		
児童は意欲的に授業に取組み、自分と関連させて考えたり、多面的・多角的に考えようとしたりする姿がみられる。道徳の授業の質をさらに高めること、評価の仕方について課題がある。																																																
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)										指標達成状況の分析																																				
取組項目	取組の評価指標	5月～8月				中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)								達成状況				年度末評価																													
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	◆道徳教育推進教師が各学年の進捗状況を確認する。(学期に1回以上) ◆各学年の年間指導計画、別業に基づく取組の検証を行う。(学期に1回以上) ◆管理職、道徳推進教師は、全学級の道徳授業を参観する。	①道徳教育の全体計画、各学年道徳科の年間計画の作成、各学年の別業を4月中に作成 ・道徳の時間の年間指導計画の評価を記入(随時) ・別業の見直し(月1回) ・各教科・行事等との関連について検証 ②授業者と管理職、道徳教育推進教師が事前研→授業実施→事後研のPDCAサイクルで授業の質を高める ③指導の意識調査の結果を集計、分析、活用 ④先進校の道徳研究会への参加→報告をして共有				B	①道徳教育の全体計画、各学年道徳科の年間計画、別業に沿って実施 ・道徳の時間の年間指導計画の評価を記入(随時) ・各教科・行事等との関連について検証 ②授業者と管理職、道徳教育推進教師が事前研→授業実施(参観)→事後研のPDCAサイクルで授業の質を高める ③児童の意識調査の結果を集計、分析、活用 ④道徳教育研究協議会や先進校視察において学んだことを報告し、効果的な取組を共有								・進捗管理 毎月実施(道徳教育推進教師) ・検証 学期1回実施 ・道徳授業参観 95%達成 年間指導計画や別業を見直ししながら道徳教育を進めてきたことで、児童も教師も他教科等との関連を意識して考えることができるようになってきた。取組の検証は学期ごとにできたが、時間があいて改善までに時間がかかった。日常的な改善が今後の課題である。				B																													
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	◆全道徳授業を公開とし、道徳授業チェックシート【教師用】3.45を3.5以上に、【児童用】を3.8を3.5以上で継続する。 ◆公開授業研においては、広く案内をして、授業についての意見をもらう。(年6回以上) ◆学びの深まる多様な板書づくりを研究する。	①授業研究4回(講師招聘) ②道徳授業チェックシート(全児童、全教師)の集計、分析、活用 ③他校の公開授業への参加(2回以上) ④学習指導案、教具、板書写真、ワークシート等の整理・保管				B	①授業研究3回(講師招聘)(11月15日研究発表会<中間発表>)を含む ②道徳授業チェックシート(全児童・全教師)の集計、分析、活用 ③他校の公開授業への参加(2回以上) ④学習指導案、教具、板書写真、ワークシート等の整理・保管								・授業チェックシート 教師3.5 児童3.8 ・公開授業 年8回実施 公開授業など年間を通じて「考え、議論する道徳」の授業づくりを意識し、授業改善をしてきたこと、これまでの児童の学びを振り返って授業プランをたてたこと、授業の展開の工夫が成果に結びついた。課題は、学びの深まる板書である。思考ツールを取り入れた板書の整理や、立場等での意見の整理などが今後の課題である。				B																													
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	◆認め、励ます評価について、評価の仕方を共有する。(学期に1回以上) ◆通知票に記載するための個人データを一人につき3つ以上は保存していき、評価に活用する。	①道徳ファイルを活用し、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握→評価方法を校内で共有→通知票に記載 ②毎時間の授業評価として、児童の主体性、多面的・多角的な見方、自己との関わりについて評価 ③評価方法についての校内研修を実施(1回以上)				A	①道徳ファイルを活用し、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握→評価方法を校内で共有→通知票に記載 ②毎時間の授業評価として、児童の主体性、多面的・多角的な見方、自己との関わりについて評価 ③評価方法についての校内研修を実施(1回以上)								・評価の仕方の共有 学期に1回実施 ・評価の蓄積 20%達成 評価については、書き方についての校内研修、ワークシートの分析、授業記録から児童の発言を分析するなどして行ってきたことが、共通理解に結びついてきている。日々の評価の蓄積は十分でなかったため、今後の課題である。				B																													
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	◆家庭・地域に呼びかけ、道徳授業についての参加率40%、参加者80名をめざして取組む。 ◆道徳参観日を行い、保護者参加率を85%以上を継続する。 ◆「高知の道徳」を活用して、保護者・地域の方に発信する。(毎月1回)	①道徳授業に、地域・保護者の方が参加し、家庭・地域を巻き込んだ道徳教育を展開 ②道徳参観日で全学級の授業公開(アンケートの実施・取りまとめ・分析・共有) ③道徳だよりや学級通信などを通して、児童の学びを家庭や地域に発信したり、「高知の道徳」などを活用したりして、啓発				A	①道徳授業に、地域・保護者の方が参加し、家庭・地域を巻き込んだ道徳教育を展開 ②道徳だよりや学級通信などを通して、児童の学びを家庭や地域に発信したり、「高知の道徳」などを活用したりして、啓発								・道徳授業参加率35% 109名参加 ・道徳参観日91.3%参観 ・「高知の道徳」の活用 学期に1回以上実施 ・道徳だよりの発行 年12回 継続的に保護者や地域の方と授業を行ってきたこと、通信等で情報発信してきたことで、保護者にも一定の理解を示してもらうことができた。継続した地域や家庭との連携が課題である。				B																													